

[JICA東京／埼玉NGOネットワーク]

## 海外協力と多文化共生を考える

埼玉県国際協力情報交換会で知見・経験を共有

国際協力機構（JICA）東京とNPO法人埼玉NGOネットワークは7月11日、埼玉県浦和市の浦和コミュニティセンターで「ともに翔んでSAITAMA～埼玉県国際協力情報交換会2019～」を開催した。埼玉県、（公財）埼玉県国際交流協会が後援した。県内で海外協力や多文化共生に取り組む参加者らは、情報と経験の共有を図った。

### NGO関係者ら80名が参加

NPO法人埼玉NGOネットワークは、県内で開発途上国支援や多文化共生などに取り組む国際協力NGOのネットワーク組織で、メンバーは現在16団体。1団体単独の活動では限界があることから、様々な社会的課題に取り組む市民団体の協働を重視しており、それぞれの知識や情報、経験などを相互に生かしあうことで、自らの活動についても強化していこうという目的で事業を展開している。

また、近年は埼玉県、地元国際交流協会、JICAなどとの連携を強めており、協働するアクターは一段と多様化しているようだ。2回目の開催となる今回の情報交

換会には、ネットワークに加盟するNGO団体や自治体、大学、さらに地元の企業関係者ら約80人が参加。自分たちの活動を踏まえ、様々な視点から情報・経験を共有し合い、考えていくイベントになった。

主催者側の一人で、（特活）埼玉NGOネットワーク副代表理事の赤石和則氏（拓殖大学名誉教授）は、「開発途上国の開発課題と地域振興など国内課題が共通化してきていると言える。地域活性化の取り組みには、地域資源だけではなく、海外協力の経験を役立てることも大切になっており、今回は海外協力と多文化共生を視野に入れ、それぞれの分野で活動するアクターの交流と協働を目指す情報交換会を目指した」と話している。

### 3つの事例を共有

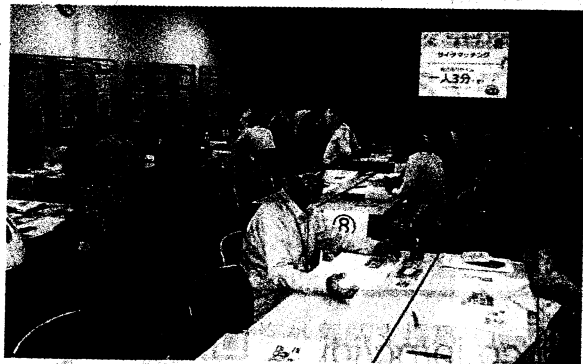
プログラムは、参加者同士が活動内容の共通点を確認し、経験交流を促す導入ワークから始まり、事例発表で



参加者の紹介をかねた導入ワーク

は、①海外協力と地域活性化「行政と住民参加による持続可能な地域づくりを目指して～『たくみの里』の知見を活かした農村部ルネッサンスプロジェクト」（発表者：（一社）みなかみ農村公園公社、②海外協力「中堅NGOとしての持続性を目指して～バングラデシュ教育支援と市民参加」（同：NPO法人YOU&MEファミリー）、③多文化共生「（草加）市との協働“国際相談コーナー”で目指す多文化共生のまち」（同：NPO法人Living in Japan）の3つの経験が報告された。

①に事例では、農村の地域資源をベースに地域の歴史や生活文化を守りながら、それを新しい地域活性化策に適合させる群馬県みなかみ町「たくみの里」の知見を活かし、地域の文化や伝統技術などアイデンティティーの喪失が危惧されるインドネシア西ジャワ州のチアンジュール農村部に対する支援計画が紹介され、注目された。この支援計画は今年度のJICA草の根技術協力事業に採択されており、今後の展開が期待されている。



意見・経験の共有を目指したグループワーク